

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■ 平成4年 中田民児協

とまや 中田文化祭で「苫屋」造り

小島敏子さん（広町）から1通の手紙に添えられて分厚い写真のアルバム1冊が届けられた。文中には「とま屋を中田地区民生・児童委員協議会の当時のメンバーが中田小学校校庭の一角に建てたときの古い資料です。その時の委員さんたちの心意気に、わたくしは深く感動しました。いま振り返ってみてもスゴイことをやった、と思います」と、思い出が込められていた。

「苫屋」とは横浜市歌の2番で歌われる「むかし思えばとま屋のけむり」の苫屋のことである。小島さんの話によると、当時の中田連合（白百合自治会を含む）には約1200世帯があり34人（男性21、女性13）の委員が活動していた。子どもや大人から「苫屋ってどんな建物？」と、よく質問されることがある。「この際、当時そのままに苫屋を造ってみようよ」ということで衆議一決。

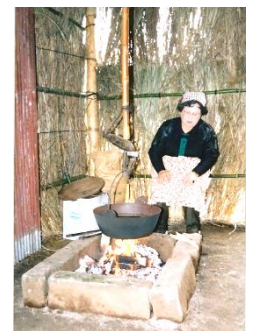
当然のことながら、すべてが初体験ばかり。まずは下調べから始まり苦労の連続だった。「どうせ造るなら中田の文化祭に合わせて完成品を見てもらいたい」。作業に取り掛かったのが平成4年10月25日。



文献から苫屋の何かを調べる。材料集めから図面書き（設計図）まで。最大の問題はカヤをどこから刈り集めるかであった。結局、現在のいずみ野まで行ってカヤを集めた。残された時間はわずか20日間。丸太の伐採、小屋の柱と屋根のカヤぶきに取り

組み、完成したのが11月14日、文化祭の前日だった。広さ2間×3間（1間180cm）、高さ2間余の見事な苫屋が完成した。大漁の旗や投網なども小屋の周りに展示された。製作に参加したおよそ20人から歓喜の声が上がった。囲炉裏から出た煙は窓からは紫色になって立ちのぼる。女性委員が作った心のこもったすいとんをいただき祝い合ったいう。

一般公開は当日の1日だけですべて解体された。しかし、地元住民に与えた感動と誇りは計り知れない。さらにアルバムに収められている37枚の貴重な写真や「苫屋」を解説した小冊子、それに会報「民児協だより」3号など尊い資料が残されている。当時のことを小島さんは述懐する。「24年前、民児協の委員が心一つにして、あれだけの物を造り上げた思いや努力は感動的です」。こうした伝統を今も受け継ぎ活躍を続ける民生・児童委員の皆さんだからこそ、多くの人から愛され尊敬される存在になっている。間もなくやって



左後方から小島貞雄、田村恒雄、高橋良保、金沢平八郎、鈴木利雄、大山武義、松本恒次、前は小糸義信の諸氏
右の写真は囲炉裏と井上静子さん

くる中田文化祭（11月13日）。20数年前の写真を見て当時の思い出を語り合ってほしい。

（編集委員・宮田貞夫）

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

11月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【中田連合文化祭】

日時：11月12日（土）17:00～18:00

11月13日（日）9:30～14:45

場所：中田小学校体育館・グラウンド

内容：体育館にて作品展示。グラウンドにて、模擬店やゲーム、マーチング演奏など。



【みんなで外で遊ぼう！】

日程：11月9日（水）しらゆり公園

時間：10:00～11:30

対象：未就学児親子

費用：無料

内容：公園で楽しい外遊びを行います。

主催：中田連合地区経営委員会

：しらゆり地区経営委員会

共催：中田・しらゆり子育てネットワーク



■ 「苫屋」と横浜市歌の誕生秘話

「苫屋」とは茅（かや）や藁（わら）を結んで「こも」状にしたものを苫（とま）といい、束ねたものを使って屋根に葺いた粗末な小屋を言った。人が住むわら藁葺き屋根の家とは違い土台がなく柱も丸太を組み、簡単に建てたものが多い。別名、静かな農村、漁村にみられる草ぶき小屋の呼び名で、漁村では浜辺に建てられた物置き小屋のことを、特に「苫屋」という場合もある。鷗外が作詞するに当たり、当時の横浜をどんな思いを抱いて作ったのだろうか。

「横浜市歌」は開港50周年を記念して明治42年（1909）に横浜市（市長・三橋信方）が作詞を森 鷗外、作曲を東京音楽学校の教師、南 能衛に依頼して作られた。作曲の経緯については南が先に旋律を作り、鷗外が後から歌詞を作り完成した。森に対する作詞の謝礼は当時で100円、南の作曲は50円だったという記録もある。なお、参考までに元の歌詞は次のような旧字で作られている。

わが日の本は島國よ	朝日輝よう海に
連なり峙つ島々なれば	あらゆる國より舟こそ通へ
されば港の数多かれど	此横浜に優るあらめや
むかし思えば苫屋の烟	ちらりほらりと立てりし處
今は百舟百千舟	泊まる處ぞ見よや
果なく榮えて行くらん御代を	飾る寶も入り來る港。



（宮田貞夫）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！